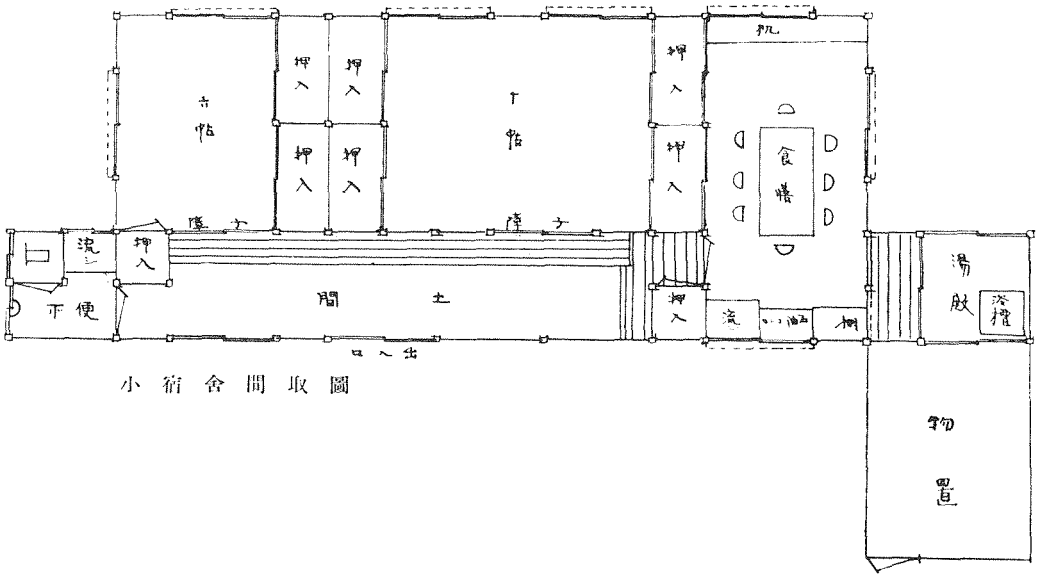

小宿舍間取圖

簡單な現場用小宿舍

係長、若くは主任が一人、炊事方一人、外に八人位の宿舍として、數個所に設置して便利を感じた宿舍の構造は、圖の如き物です。入口を入つて土間があり、六疊、十疊の隣りに十疊大の食堂、臺所、兼事務室で、外に、湯殿、物置、便所があります。尙此の外に材料倉庫があれば山間の僻地でも、郊外の樣な地でも、作業場に近く之を立てれば、從業者は非常に便利で、晝夜交代で仕事が出來ます。

仕事の能率は、從業者の住居の完全なると否とに大に關係があるのですから、其邊を考ふると、是位の宿舍建設費用は、仕事の能率を上る事に依つて繰り出せます。

此宿舍の最も重要な點は臺處です、スタンダードの石油ストーブ二燈立を据付て、向てつ右に流し、左に棚があり、物入を幅三尺の高さ九尺の四段に棚板を造り、米から醬油其他一切のものを入れる事が出來ますから十人の賄は一人で氣樂に出來ます。

土間を設けましたのは、職業柄雨具、小道具等の置場所と、土足で土間から應接が出來ますから便利です。

湯殿は巴風呂を据付けて、石炭を使用します、田舍は割合に燃料が高價です、石炭を得るに不便な地は木炭でも薪でも使用出來ます。

（六月十一日、吉田）

簡單な現場用宿舍の小景(吉田氏案)

是は熱海の山中に於ける作者の現に使用しつゝある現場用宿舍である、朝か、晝か、それとも夕近くか、兎に角人々は仕事に出て行つた後の、小閑らしい情景である。

案としては、決して奇拔でもなければ深刻でもない、寧ろ凡百に屬するが利那的な現場宿舍の質として、稍々氣が利いた、そして平凡な所に考慮をめぐらしてその平凡さを表した所に、氣が利いた所がある。